

妹ととも子信あり、性まぬまて、松平の城主封を播州明石
子移し、次ぎく濃州加納城に移す。澁高もまことこれに移り
十一歳ありて、祿を多し幼あり、聰明のまきえあり、眼中
雙眸あり、炯々として電の如し、見たり、時をやく書を讀
る、一日の課業積むと一寸十行俱にふる、文を修む、雄
邁の氣象あり、郷人皆のく奇童とす、長とありて、精思
力、踐いさるるも怠るをみ、善し、その甚傑ゆれ、子うらやま
る、とくやくのどとく、十六歳の射書をめて、志あり、その志を諒
免たれど、容れらるるさふよりて、退き去り、母子ともも、江
戸にあり、其北郷に隠れ居り、母を修め、積むり、もろ
宋學をまじ、願、漁、洛、園、岡の書に通じ、且、珍、籍の學をまじ

世にまきこえり、美化の刺史桑山一尹の志と、交、信、と、ふ
厚く、刺、史、ろ、ろ、と、文、を、崇、む、武、を、修、め、人、に、居、り、義、氣、を、
ひ、その、英、傑、卓、偉、た、る、と、世、に、ま、れ、比、を、見、ん、澁、高、も、常、に、
訪、訊、し、刺、史、の、寵、遇、も、ふ、他、と、か、り、刺、史、に、ま、り、お、か
く、病、に、因、り、く、卒、す、澁、高、の、嘆、き、た、る、と、あ、り、道、を、諒、す
る、小、友、か、く、兵、を、説、く、ま、し、り、れ、と、く、悲、痛、く、ま、り、あ、り、け
り、後、年、城、中、伏、見、竹、田、に、遊、れ、居、り、終、に、病、に、よ、り、て、牙、ま
ろ、り、ろ、り、と、れ、ハ、伏、見、の、東、山、あ、り、養、春、寺、に、葬、り、時、小、元、祿、三
年、十、月、廿、日、あ、り、享、年、五、十、四、歳、澁、高、も、世、に、あ、り、日、出、を、交
去、就、ろ、ろ、と、諺、り、れ、く、澁、操、名、前、を、も、汚、さ、ん、ま、し、希、世、の
偉、人、と、い、ふ、べ、く、その、著、尺、と、ろ、り、兵、要、録、二、十、二、卷、檢、考、集

解一巻を以て餘著述といふより、今古の煙曉すも、
ろを圍き、如神に發せざることを、岐うふするを、
澹高の兵法と傳ふるもの、佐枝、平重、多川、忍高の二人、
の巨擘たり。

美成云、今世子長沼流と稱する、多法ハ澹高、
里出より佐枝、宮川の二派あり、その術を學ぶもの、
世子あまぬく、さく、多要、深子、攻城あり、く、
き、澹高の卓、又、い、く、
よ、が、攻、乃、法、子、より、く、防、ぎ、守、り、か、ハ、何、の、く、
き、正、り、あ、ん、あ、れ、ど、も、その、流、子、多、要、深、子、
續、深、子の、書、あり、て、也、城、を、説、り、り、得、進、の、益、あり、少

う、
い、と、
く、
練、
て、

佐枝政之進

佐枝政之進、名ハ平重、碑、五、新、と、号、す、
と、
よ、
子、
子、
子、

州名らうつはつとあかめ居らうらう風致のゆき多
ハすとしてあかめ芥を拵たり一声のこゑとて子お碎き
拵たり寝るは痛く東歸の日に少くとて香燼ハつひ
子調はずあんな達意の人ハ勢ひあてそのあつて奪ふ
ざるこそこの例ハサウラ

賣酒師

賣酒師ハ何れのことろ此人とてあつてあつたゆきの姓氏を
も詳しせず自稱くく噲とてあつたあつたハ彦四郎と通
稱す年三十歳むらうあつて京師白河北西街子橋居
一書畫地よび篆刻を善く一書子備書とてこれ
母を養ふとて生計とて之ハ一賤賤するとあつた

こゝに於て自嘆くそあつたあつた文雅ハすかた孝養
小磯あり我ハとて何家此子なりされハ酒を傳り
て産業とて一日親を養ひ且安色あつたむらうハ志
くこのひやくやく素中の書畫とてくく散齋
く陶器酒具を購ひ求むる子於舊癖依然とてそ
の買ふところの器皿とて唐山舶来此品物のことと酒
ハ浴布乃美礪を傳りくく七重の飾りて七さび
流るればその味ハ清芳ありく列あつた醒意甚だ快く
ろく宿醒せらるる門簾子竹解鎖の三大字を書き
外ハ招牌を掲げてこれ面ハ此肆下物一則漢書二
則雙柑三則黃鳥一聲とてあつたたりくハ好筆の年

少つぬ子従て宴を催すあま子よりく来賓たるは
ごもその價ハ内此多寡子ありて贏利を食ふ毎歳
春の半子よりくハ揚花の盛開ふありて日とふ大括内
益と為擗ひて東山子座を設け嵐山の江畔子行鬻き
おと秋の末水取りてハ雲葉此紅子織る以てハ
席をひらき臨川福院此ありて夢りありきつ一般若湯の
三字を考へたる内旗を建てると遊人の認るをいぬハ
あやしくさくハ笑あめのもありされどもその内此
てつ子ハあまのい熱く飲めりとうやてふ丈人才子
風流を愛し詩を賦し言を翻してあま子贈るもの多
ればその詩を考へて考へて考へて賓客の觀子傳へるごと

美成云この壹萬兩の傳ハ芥川彦章の記一つ
たつあありその記事此未子論じつハこれよ
里老き小妻を養ふとふ希世の名人あり壹萬兩
ハこれ人を慕ひたりや抑奇をこの名を豹の
人乳を之輕侮取るき軍ある乳をいふは此と如く
至雅を愛して傳をつらうとこれハ贈るとのあを
り

又言般若湯ハ内ノ異名あり東坡志林子見えく
わと僧家の隠語子ありありおと招牌子あり下
物ハ子故事子擗りし擗すも小世説言語子載
仲若春日雙柑斗酒を擗入擗ふ子人何く子終や

と同し子言く之往きく黄鸝の声を聴くこ色俗
 取の針夜詩腸乃鼓吹ありとつう同豪爽子獲
 子美真放不羈ありと内を好め外舅杜祁公
 が家子存りく毎夕讀書する子内一本を限りと
 す公深く好ひ抄ひて密子これを見せむる小子
 美涛書張るは傳をよきあつうが良与客相擊
 秦白帝とふ像子つうと堂を撫る惜い子
 敷く中らんとて遂子一大白を燭引す又よき
 良回旋巨起下邳与上會於苗此天以授陛下と
 小勇りく又業と拵て君臣のお通その難きこと
 かく此如くも復一大白を拵ぐ公笑てさうく



の如き下物あつて一年も多しとすも子思は
とてとて入るる黄鸞此声己子世説子ありと
とぞ移りて吠の事源漢が早夏示殿卿七絶
子長夏園林黄鸞来百花春酒復新開主人
把酒聽黄鸞黃鸞一聲酒一杯とぞ

義僕元助

志徳義士片屋源五郎の言房の家僕を元助とすり幼
ときより言房の家子畜りて令あり篤実勤行あり
事執ると甚どつとあり言房志徳を考るの日子
ありてつふ奴婢子とくを暇をこころをさしと
元助ひより當りて去る言房子後ひて江戸子あり

朝夕薪水の勞とてを出入事をなして餘力をこ
ますこれんを盡すと昔日子勝なりたあり同僚とと
小姓を報ゆるの見迫りてふあり元助を呼ひて
ハ汝が困厄の同れなきも勤めありきて中興す
るも外ありておねて仕官を求め江戸子ありても
二年子及ぶそのうち何れ資用子兼て殆どあり世
のありさるやつととおひめをす小諸侯子士を聘
すもあつて列國を招きこれにさくもかくても仕官の
を絶つる薦挙の令ありて色ハ四方子推歴し
何くの國も身をよせお裁けありてとて傳令し
ころやすく生涯を終んてをさそおのり人となすのやう

ありけれもゆく困窮困窮をゆくものありけし汝が勤静勤静を為し
 らしき事子もせず子もせず一存一存よりて暇暇をゆくすはれは連不連不
 さまとつを建てて元助元助清江清江しく僕幼僕幼より君の久て已已
 子十有餘歳十有餘歳百も未未だうゆく君の怒りもあをて又又はをさ
 らうらんとせうけのなるハ僕僕母母あををを智智をぐぐらう命命も
 今日今日子限子限なりとも趨趨り行行ふ言言房房ゆりとおくてあはま
 つまきひそふ事事のやうを伺伺ひけり子やうて自殺自殺及んとせしふ
 あをさくともめめ刃刃を奪奪ひ吐吐くく奴奴ぶぶらう給授給授を生生ぐ
 何ぞ不忠不忠をあたと咎咎むまは言言形形をくハ君の恵恵子子日日れそ
 て死死めあまう僕僕わとより君の為為子世子世あり誰誰が為為子子
 生生を命命んといふ言言房房ゆりあをて隣人隣人を中中とひ元助元助

とぞうしめく自自心心きて同僚同僚勲軍勲軍ともあひあり歎歎未未せ
 誇りていりやんととむ壺壺を挙挙げて言言子子彼彼が志志を感感ド
 あを化化して言言他他を撃撃の正正を告告うともあやまら何何ら
 いとく言言房房元助元助を呼呼ひ同僚同僚とも小事小事甚甚く密密ありと
 とも汝汝が志志子子志志ぐやむをれく告告げ知知らすあり前前まハ
 辭辭を他事他事子託託せりあり恨恨むととありれとも復讐復讐言言のよ
 と告告げあうせなまは元助元助のよるこひいせんうさく有難有難
 もうら密事密事をまか如如き下賤下賤子志志をゆるるとよ君恩君恩子
 言言早早の別別あをれ仰仰ぎぬがさくハ死死をさるさる小せんといふ
 小言房小言房まうぬく大石君大石君の我我もさう小切小切く戒戒められて單身單身
 の外外ハ奴僕奴僕を信信ずるを許許さへくれは汝汝一人一人の故故をり衆衆